

真 善 美

めざす生徒像

思慮深く創造性のある生徒
心豊かで思いやりのある生徒
健康で明るく気力のある生徒
規律を重んじ協力して実践する生徒

令和5年12月11日(月)
第31号
(文責：校長 勝部)

各種コンクール・審査会での入賞相次ぐ！

夏から秋にかけて応募した各種コンクールの審査結果が次々と発表され、本校生徒が多数入賞しております。賞に入らなかった人も含めチャレンジしてくれたことに拍手を送ります。

令和5年度一関市児童生徒納税作品

習字の部 一関市議会議長賞 宮野真帆 (3年)

作文の部 一関市納税貯蓄組合連合会長賞 小山水森 (3年) 村上莉彩 (2年)

小山さんは県では優秀賞でした。

第48回「ごはん・お米とわたし」作文・図画J Aいわて平泉コンクール

作文部門 中学生の部 最優秀賞 佐藤笑之佑 (2年) 学校賞 桜町中学校

図画部門 中学生の部 優秀賞 鶴田裕子 (2年)

第20回みちのく「二夜庵」俳句大会

奨励賞 千葉龍之介 (3年) 金子紗羽 (3年)

第42回全国中学生人権作文コンテスト岩手県大会

水沢人権擁護委員協議会長賞 岩崎彩華 (2年) 岩崎さんは県では優秀賞でした。

一緒に考えよう！—教育に関して、世の中で問題・話題となっていること— その6

引き続き教職員の働き方改革に関わる部分ですが、今回のテーマは『部活動の地域移行』です。

部活動の地域移行のおもな目的とその背景

◎ 少子化で危機に陥っている部活動の存続

→ 多くの部が部員不足で、もはや学校単位での部活動は限界にきている。

◎ 顧問教員らの負担軽減と時間外勤務（休日勤務）の縮減

→ 土日や祝日も部活動指導に携わっている教員の負担を減らしていかなければならない。

近年のおもな動向

① 2020年9月、国（文部科学省）は、「休日の部活動を従来の学校主体から地域主体にしていくことを柱とする部活動改革案」を発表し、部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえて、休日に教師が指導に携わる必要がない環境を構築すべきだと提案しました。

② 2022年5月、文部科学省は2023年から2025までの3年間を、地域移行改革集中期間と定め、その期間内に各自治体や学校に部活動の地域移行を実施するように求めました。

→ （教育現場からその期間では無理だという声があがり、その後努力目標に変わりました。）

③ 2022年度から、一関市では、地域移行へのステップとして「地域部活動」（休日型・全日型）という制度を設け、顧問がついていなくても部活動ができる環境を整えようとしています。

*一関市の「地域部活動」については、次回少し詳しく紹介します。

地域移行を進めるにあたっての大きな課題

● 指導者の確保

→ 専門性の他に生徒の安全確保も求められることから、これが一番の課題だと思います。

● 保護者負担の増加

→ 活動場所までの送迎、指導料・会場費等の出費など新たな負担が出てきます。

私自身は部活動によって鍛えられた人間だし、教員になってからも部活動を通してより良い人間づくりをしてきたつもりなので、近年の部活動を巡る動きについては少し複雑な気持ちです。